

 評価のポイント

CL-IV. ニーズを捉える力（精神科）

[10-4] 精神科における薬物療法の看護 ①多剤併用患者への多職種対応②CP 換算

以下のケースについて、個人またはグループで考えてみましょう

35歳の男性患者 Aさんは、統合失調症と診断されており、抗精神病薬を4種類併用しています。最近、Aさんは体重増加、口渇、眠気の副作用に悩まされており、日常生活に支障をきたしています。また彼の家族は彼の薬の管理について心配しています。

- ① 抗精神病薬多剤併用のリスクについて述べてください
- ② このケースにおける看護師の役割と対応について具体的に説明してください
- ③ 多職種連携の重要性について述べ、どのような専門職が関わるべきかを挙げ、その理由を説明してください
- ④ 薬物管理について、患者と家族にどのような教育を行うべきか提案してください

①薬物相互作用による副作用のリスクが増加します。例えば、Aさんのケースでは体重増加や眠気などの副作用が顕著です。また、服薬アドヒアランス（遵守）の低下や管理の難しさが増す可能性もあります。

②患者の健康状態のモニタリング:

副作用の管理、薬の有効性の評価、精神状態の観察を行います。定期的なバイタルサインのチェックや体重測定も必要です。

患者教育:

副作用の認識と対応方法について患者と家族に教育を行います。また、薬物療法の目的と重要性を理解してもらい、服薬アドヒアランスを促します。

精神的サポート:

患者の不安やストレスの軽減に努め、日常生活の質を向上させるための支援を行います。

③医師: 薬物療法の適正化と副作用の管理を担当します。必要に応じて薬の調整を行います。

薬剤師: 薬物相互作用のリスクを評価し、患者や看護師に対する薬物教育を行います。また、服薬アドヒアランス向上のための支援を行います。

臨床心理士: 精神的な支援やカウンセリングを行い、患者の心理的な安定をサポートします。

④薬の管理方法: 薬の服用時間や方法、副作用の兆候について明確に説明します。薬のリストや服薬スケジュールを提供し、家族にも管理をサポートしてもらうようにします。

副作用の対策: 口渇には水分摂取の促進、眠気には服薬時間の調整など、副作用に対する具体的な対応方法を指導します。

生活習慣: 健康的な食事と適度な運動の重要性についても説明し、生活全般の健康管理を支援します。